

和歌山県みなべ町で最近発見された大形のゲンバイヒルガオ(ヒルガオ科)

田名瀬 英朋*・久保田 信**

Hidetomo TANASE and Shin KUBOTA: Large specimens of *Ipomoea pes-caprae* (Convolvulaceae)
recently found in Minabe town, Wakayama Prefecture, Japan

ヒルガオ科のゲンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* (L.) SWEET は、熱帯や亜熱帯の海浜に生育する多年生植物で、わが国では南西諸島をはじめ九州や四国の太平洋沿岸の海浜において繁殖している。本種は海流散布植物として知られており(中西, 2008), 繁殖域以北の海浜でも漂着した種子の自然発芽が可能である。しかしながら、黒潮や対馬海流の影響を受ける太平洋沿岸では茨城県、日本海沿岸では山形県にまで発芽個体が確認されているものの、発芽してから1年未満の個体しか確認されていない。人為的に温室などへ移植された個体以外は(乾風, 1970), 1回目に迎えた冬季の低気温によって枯死しているものと推測されている(中西, 1987, 2008)。

和歌山県下における海浜からも1929年より報告例があり、数ヵ所から各々単独の発芽個体が報告されているが、越冬が確認できた個体はまだ報告されていない(宇井, 1929; 太田, 1931; 黒田, 1959; 後藤, 1962; 乾風, 1970; 桎山ほか, 2009)。今回、西牟婁郡白浜町に続き(桎山ほか, 2009), 2008年の12月から2009年1月にかけて、日高郡みなべ町内の“千里の浜”(砂浜部の長さは約1,300 mで、アカウミガメ *Caretta caretta* の上陸産卵地として有名(後藤, 1994))と南部川河口域の海岸(砂

浜部の長さは約900 m)において、本種の生育状態を調査した。その結果、“千里の浜”の潮上帯6ヵ所(各々の個体は全域に散在)から各々1個体が発芽しているのを確認した(表1)。その内の1個体は、茎の最大長が4.9 mに達していた。本種の発芽個体の茎の長さは、1年未満の場合、成長しても2~3 m以下と推定されているので(中西弘樹教授私信), この最大個体(図1, 表1の個体I)は2007年に種子が漂着・発芽し、越冬して1年以上を経過している可能性が高い。したがって、発芽後1年以上を経過した個体の生育は、本州域における記録としては僅少例の一つとなる(千葉県で越冬したと思われる個体がインターネット上に紹介されている: 中西弘樹教授私信)。また、みなべ町内における過去の発芽記録としては、1970年に南部川河口の右岸側に形成されている砂洲から1個体のみが確認されているが(乾風, 1970), 今回実施した同一場所の調査において本種の発芽個体は、全く確認できなかった。一方、“千里の浜”における過去の観察報告は無い。今回、“千里の浜”から確認した発芽個体の総数は、2008年において白浜町の3個体(桎山ほか, 2009)に続く多数個体(6個体)の記録となる。これらの各個体が枯死しないで越冬できる

表1 和歌山県みなべ町“千里の浜”で発見された6個体のゲンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* の測定値 (2008年12月29日測定)

Table. 1. Measurements of six specimens of *Ipomoea pes-caprae* found on "Senri-no-hama" beach in Minabe town, Wakayama Prefecture, Japan (measured on December 29, 2008)

個体番号	茎の総数	各茎の長さ cm				根の最上部 の直径 mm	満潮線から根 までの距離 m	最大の葉	
								長さ mm	幅 mm
I	7	490.0	316.0	295.0	287.0				
		280.0	160.0	81.0		23.0	19.0	62.0	65.8
II	2	19.0	3.5			4.3	4.0	50.7	50.1
III	4	49.5	46.0	24.0	2.5	9.6	10.0	48.0	37.2
IV	3	146.0	41.0	17.0		10.8	7.0	42.1	35.8
V	3	18.6	4.6	1.5		4.3	22.6	43.0	48.1
VI	7	59.8	28.4	16.5	2.8				
		2.6	1.5	1.4		7.1	17.8	52.1	41.8

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676
** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所



図1 日高郡みなべ町内の“千里の浜”で発見した7茎を有し、発芽1年以上(表1: 個体番号I)のグンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* (2008年12月29日撮影)

Fig. 1. *Ipomoea pes-caprae* of more than one year in age with seven stems, found on “Senri-no-hama” beach in Minabe town, Wakayama Prefecture, Japan (No. I in Table 1) (photographed on December 29, 2008)

かなどの観察は、白浜町の3個体と並行して続行している。

Summary

A rare case of overwintering specimens of *Ipomoea pes-caprae* (L.) SWEET (Convolvulaceae) is reported from Honshu Island in Japan. An individual of up to 4.9 m in stem length (the longest of its seven stems) was found on “Senri-no-hama” beach in Minabe town, Wakayama Prefecture, Japan, in winter of 2008-2009, together with five other, younger individuals. Measurements of stem length, diameter of the uppermost part of the root, and the maximal leaf length and width are given for all six individuals, together with the distance from basal stem to the high tide mark on the day observed (4.0-22.6 m).

謝 辞

本種の分布・成長・文献について種々のご教示を下さり、原稿を査読して下さいった中西弘樹教授(長崎大学教育学部)、文献複写にご協力下さった榎山嘉郎元技官(元京都大学瀬戸臨海実験所)および和歌山県立図書館に深謝致します。また、英文を直して下さいったMark J. GRYGIER 博士(滋賀県立琵琶湖博物館)に深謝致します。

引用文献

- 乾風 登. 1970: グンバイヒルガオの記録—南部川の河口にて—, 田辺文化財, 13, 18-19.
- 後藤 清. 1994: 和歌山県・南部町. in 紀伊半島ウミガメ情報交換会ほか編, ウミガメは減っているか~その保護と未来~, 78. 紀伊半島ウミガメ情報交換会, 田辺.
- 後藤 伸. 1962: グンバイヒルガオが加太に, 紀州生物, 2, 53.
- 榎山嘉郎・久保田 信・田名瀬英朋. 2009: 和歌山県白浜町で最近発見された若いグンバイヒルガオ(ヒルガオ科), Kuroshio Biosphere, 5, 23-25, pl. 1.
- 黒田隆司. 1959: 美浜町のグンバイヒルガオ, 日高郡沿岸地帯の植物相(中間報告), 9. 日高高校生物部, 日高, 和歌山県.(筆者ら未見)
- 中西弘樹. 1987: 日本本土におけるグンバイヒルガオとハマナタマメの分布と海流散布, 植物地理・分類研究, 35, 21-26.
- . 2008: 海から来た植物, 319pp. 八坂書房, 東京.
- 太田馬太郎. 1931: 紀州ニ生エタぐんばいひるがほ, 植物研究雑誌, 7, 388-389.
- 宇井縫藏. 1929: 紀州植物誌, 338pp. 近代文藝社, 大阪.